

6.

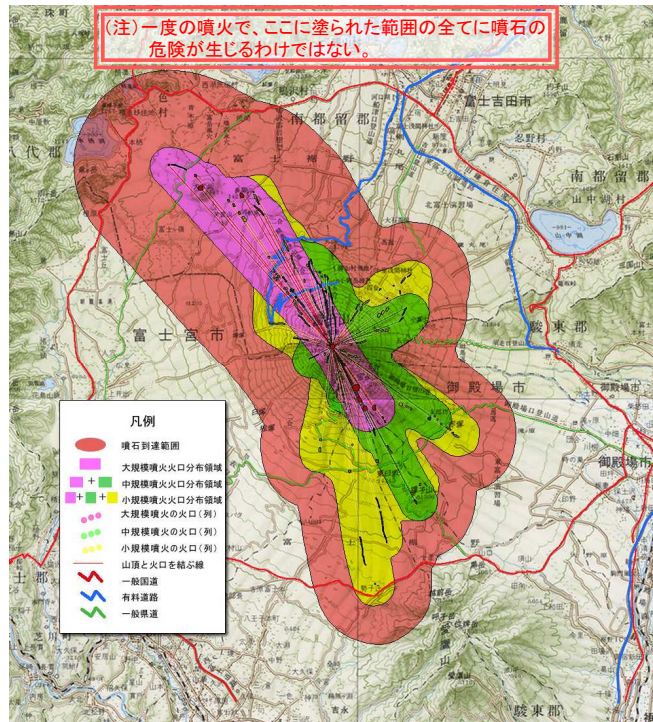
大きな噴石のハザードマップについて

6. 大きな噴石のハザードマップ

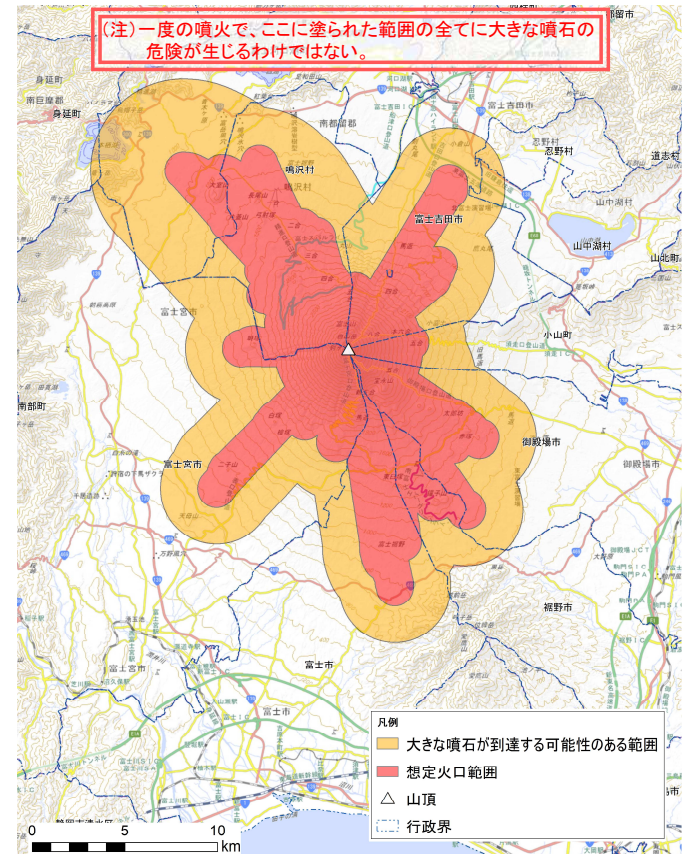
point

- 今回の改定により見直した想定火口範囲により、大きな噴石のハザードマップを再作成した。
- 大きな噴石の影響範囲は、平成16年版と同様、大規模噴火の想定火口範囲から4km、中小規模噴火の想定火口範囲から2kmを包絡する範囲としたが、想定火口範囲の拡大により、**影響範囲が山頂から主に南西側（富士宮市方面）及び北東側（富士吉田市・忍野村方面）に広がった。**

【旧】 噴石の可能性マップ（平成16年版）



【新】 大きな噴石の可能性マップ



- ※ 空気の抵抗を受けず放物線状に飛ぶ岩塊のうち直径数10cm以上の噴石を対象とした。
- ※ 噴石の到達範囲について、以下の条件のにより噴石の可能性マップを作成した。
 - ・ 大規模噴火の想定火口範囲の外縁から4kmの範囲。
 - ・ 中小規模噴火の想定火口範囲の外縁から2kmの範囲。

- ※ 気象庁の定義による概ね20~30cm以上の、風の影響をほとんど受けず弾道を描いて飛散する「大きな噴石」をハザードとし、大きな噴石の可能性マップを作成した。
- ※ 大きな噴石の到達範囲については平成16年富士山ハザードマップ検討委員会報告書以降、新たな知見が得られていないため、平成16年版と同様、左記の到達範囲とした。